がん化学療法看護認定看護師　大西　亜沙美

1．きっかけ

学生時代から「認定看護師」は特別な存在で漠然とした憧れを抱いていました。就職し、出産・を経て育児をしながら勤務する毎日では、今後の看護師としてのビジョンを抱くことができていませんでした。そのような中、上司から認定看護師を目指さないかと声をかけていただきました。まだ子供は小学生と幼稚園生でもあり自分自身も看護師として８年目だったため、このまま専門分野に進むことを決意してもよいのかと悩みましたが、この先看護師として一生働いていく上で、自信となるものを手に入れたいと思いました。専門分野となると、看護師としての幅が狭くなってしまうとも思いましたが、がん化学療法を受ける患者さんは若年から高齢者まで対象が幅広いため、看護師として成長し続けられると思い決意しました。

2．活動していること

血液内科の病棟でスタッフとして 3 交代勤務をしています。がん薬物療法を受ける患者さんがその人らしい生活を送ることができるように、医師からの病状説明に同席し、治療選択についての意思決定支援、副作用やスケジュールの説明、セルフケア支援などを行っています。また病棟スタッフへ抗がん薬の副作用への対処、セルフケア支援、抗がん薬の取扱についての指導を行っています。また、院内全体の看護師が安全かつ質の高い看護が提供できるように、抗がん薬の取り扱いについてのマニュアルの整備や指導を行っています。

閉鎖式輸液セットの指導中

3. 認定看護師として大切にしていること

がんと診断され、治療を受けることになった患者さんおよびご家族は様々な不安を抱えています。これまで歩んできた人生やこれから歩む人生が全て変わってしまうこともあります。そんな中で、少しずつでも希望を見出し、その人らしく生活することができるように治療についての意思決定の支援や副作用に苦しむことが少なく治療を乗り越えていくことができるように専門的な知識を持って支援したいと考えています。そのためには患者さんと信頼関係を構築し、安心感を得ていただく必要があるため、常に知識をアップデートしていくこと、笑顔とコミュニケーションを絶やさないことを大切にしています。また、自分の家族だったらと考え、やさしさと愛情を持ち患者さんに寄り添える看護師でいられるように努力しています。認定看護師として根拠を持ち患者さんに関わることやスタッフへ指導をすることで、ケアの達成感を強く感じながら充実した仕事ができるようになり、更に学習をすすめていくモチベーションにもなっています。家族を持ちながら認定看護師として働くことは大変な面もありますが、両親の協力を得ながらも頑張ってきました。家族の存在が、息抜きになっているだけでなく、女性としてや母親としての役割も担うことで自己肯定感を強めてくれています。また、自分らしく看護師として活き活きと働く糧になっています。